



宮城の13企業が合同インターン

知らない業界深掘り

宮城県内の学生に地元企業の魅力を知ってもらおうと、県内13社が合同で実施するインターンシップ（就業体験）事業「JIMOTOコラボインターン」のキックオフイベントが9日、仙台市太白区の東日本放送ぐりりホールであった。

学生27人が参加。3人の企業幹部が会場の質問に答える形で、地元で働く面白さなどを語った。古紙回収などを手がけるSKホールディングス（仙台市）の斎経営者ら3人が話したキックオフイベント

仙台でキックオフイベント 就活の心構えなど指南

藤孝志社長は就職活動に触れ「面接は自信を持って、ありのままを見せていい」とアドバイスした。

合同インターンは県外で就職する学生が多いことを背景に2019年にスタート。SKグループや包装資材商社の高速、お茶の井ケ田（いずれも仙台市）などが受け入れ、今年は8大学から38人が応募した。

9月16日までの約1カ月間、インターン先の企業を週1回ほど訪問して仕事を学びながら、その企業の強みを生かせる事業プランを構想し、17日の成果発表会でアイデアを披露する。

東北工大3年庄司晴香さん(20)は「知らない業界に飛び込んでみようと思った。他大学の学生と仲良くなりたい」と意気込んだ。